

第4次佐倉市総合計画 総合計画審議会（第6回） 要録

日時	平成22年8月20日（金）13時30分～ 16時54分	場所	1号館3階会議室
出席者	審議会委員：亀山委員、熊本委員、坂口委員（副委員長）、鈴木委員（委員長）、津留崎委員、西村委員、原委員、平川委員、松崎委員		
	事務局	小柳企画政策部長 企画政策課 小島課長、橋口副主幹、櫻井主査、舎人主査	
	その他		
発信	内 容		
委員長	<p>第6回開会挨拶 前回は策定の趣旨、構成、概況について審議した。 今回は1～6章について行いたい。 前回からの修正点について、事務局から説明願いたい。</p>		
事務局	<p>前回の変わった点等に下線を引いた資料について説明する。 P7→若年世代が少なくなっていることをわかりやすくするため、人口構造の推移のグラフを導入した。 P11→市税の状況のついてのグラフを追加した。 P15→行政改革の分野について追加した。 P20→土地利用の基本方針の表記の仕方を「市街化区域、調整区域」から、「自然環境の保全、地域特性を生かした土地の有効利用、安心して快適に暮らすことのできる土地利用」に変更した。</p>		
委員長	<p>事務局より P1～P20 で変更あった箇所について説明をもらった。 この箇所について、意見等ある方はいるか。</p>		
委員	<p>P5 のプロフィールにある交通と P14 好条件の項目にも同じ表記があるが、そのままでもいいのか。</p>		
事務局	<p>プロフィールでは便利な交通条件と書かれているが、市民意識調査には問題点として挙がっていることの説明と考えている。</p>		
委員長	<p>同じ内容でも、表現方法は工夫の余地があると思うので検討願いたい。</p>		
委員	<p>P6→平成32年度までの総合計画なので、平成32年度までの人口予測をいれるべき。 P19→佐倉市の将来像「歴史 自然 文化のまち」となっているが、自然があつて、歴史、文化があるのでないか。この表記があるのに、P1 では上段では「自然、歴史、文化」となり、下段では「歴史、自然、文化」となっている。統一すべきである。 P12→歴史、文化に保全という言葉はなじむのか。</p>		
事務局	<p>「歴史、自然、文化」で統一させたい。人口推計については、概況はこのままで、推計は今後の施策に繋がるようにしたいが、今一度検討したい。</p>		
委員	<p>人口推計はあくまで推計だが、基本構想には入れるべき</p>		
委員	<p>現状のままでは減少していくが、施策をすすめるところ増えていく、となるようなグラフがあるのが望ましい。P17 将来都市像に向けての中に入れてほしい。人口推計通りにな</p>		

	らなかったら、5年後、10年後の総括の検証になる。
委員長	委員からはやはり入れるべきとの意見が多い、グラフや表などを入れて文章を検討してもらいたい。
委員	P5 沿革については、専門分野なので一部追加したい。追加案プリントを配る。 P12 歴史の保全でなく、理解などがよい
委員	こういう場合は継承という言葉をよく使う。
委員	P15 下段は市民と市民、市民が多すぎて何が言いたいかわからない。
委員	P15 の上段と下段について、財政が圧迫していることと市民参加はつながらないのではないか。今までは行政が市民に何かをしてきた。これからは、市民が行政の手伝いが出るのではないかということをお願いのだろうと推測はできるが。
委員長	財政圧迫しているので、NPO 等の市民参加で補うのは違うのでは？
委員	上と下をつなぐ文を入れるとよいのでは。財政が厳しいから、必要以上に行政依存をしないという方向性をいれる。しかし、上段と下段は別という意見もある。検討していく中で、基盤と協働は2つに分けることも検討願いたい。キャッシュという書き方ではなく、本市の収入を増やすなどの表現に変えた方がよい。
委員	P12 意識調査については、「高齢者に関する意識調査」ではなく、同じ出典ならば「意識調査の高齢者に関すること」など表現に気をつけること。
委員	P11 下のグラフを入れるなら、経常収支比率や財政力指数についての市の状態などの説明や用語についての説明文を入れるべき。
委員	農業についてはふれないのか。農業従事者の高齢化、土地利用、跡継ぎ問題など。
委員	都心から 40km の佐倉市が、産業の中に農業を入れないのか。すべて開発して人口増加をしていくのか。そうでないとすれば農業は入れるべき。
委員長	西村、平川委員からもあったように、ここ数年農業従事者が増えている。これからの計画には産業振興の中にも農業はやはり入れるべき。
委員	自然環境の保全は農林業などがあって保全されているから、農業の表記はあるべき。
委員	P15 キャッシュを稼ぐということに関連して、農業を入れて考えてもよいのではないか。
委員長	P20 までについては、ここで終了する。事務局には出た意見について検討願いたい。 P21 からについて、意見をいただきたい。
事務局	資料について P21 から始まる 1～6 章の説明。
委員長	1 章ずつ審議願いたい。 まず 1 章「思いやりと希望にみちたまちづくり」から。

委員	P23 障害がない人を健常者としてはいけないのか。
委員	色々な計画を見ているが、あまりこういう表現は見たことがない。個別計画など、この表現が障害者福祉の文面として位置づけられていないのであれば、健常者と比較するような文章ではない方がよいと思う。
委員長	1章は上記の表現を事務局で検討すること。 つづいて 2章「快適で、安全・安心なまちづくり」 。
委員	印旛衛生組合の(3市1町)利用者が15万人いるということは、下水が入っていない人が15万人いること。佐倉市だけが下水道整備率90%といっても、印旛沼は隣接市町が連携しない浄化されない。
委員	佐倉市は湧水が多いので、湧水から始まって海(印旛沼)までである自然をもつ佐倉と文章に入れても良いのではないか。
委員長	前回までの審議会が出た意見と思うが、独居老人などの安全、安心については、考慮されているか。
事務局	1章で入れている。
委員長	コミュニティーのある社会づくりという文言も、1章の中に入れてもらいたい。
委員	ゲリラ豪雨など現在の流行の言葉を入れた方が、時代背景がわかるような気がする。
委員長	2章については、以上の点を事務局で検討すること。 続いて 3章「心豊かな人づくり、まちづくり」 。
委員	P28 郷土ではなく、地域が望ましい。郷土は、他との交流を分断した言葉ととらえている。郷土と表記されている部分はすべて地域と変えること。
委員	初等、中等教育について、佐倉市はこういう教育をしているという表記があってもよいのではないか。スポーツ行政についても、マラソン以外のことにも力を入れていると思うので、箱物施設ではなく、生涯にわたりスポーツにいそしむ環境作り、指導者育成などの方向性があればその辺の表記があってもよい。
委員	佐倉市は教育と医学の先駆けである。佐倉市は偉大な先覚者がいることから、教育に力を入れているということをもっと前面に出してもよいのではないか。
委員長	いつでもスポーツのできるまちづくりの表記があるので、印旛沼周辺の豊かな自然の中で体作り、教育ができるということを表記してもよい。
委員	オリンピック選手などを輩出していることから、佐倉市を売り出すにはやはりスポーツだと思う。
委員長	佐倉市には全国的に有名なマラソン指導者がいる。もし、具体的な計画があれば、基本構想にももっと積極的な入れ込んでもよいのではないか。

委員長	3章については、以上を検討願いたい。 4章「明日へつながるまちづくり」 について
委員	P31 「交通の便に恵まれている」と「活気あるまち」がどうつながるのか。新しいことを具体的にしようとしているのか。
委員長	首都圏から近いことは利便性が高いが、市内で移動する人は不便と感じている人がいる。どこかに基準が必要である。
委員	P31「交通の便に恵まれている」ことについて。全国及び県内各市町村と比較しても、佐倉は都心に近く、交通の便に恵まれている。その上で、若者世代を常に念頭に置いて施策を実施することで、交流人口を増やすことにつながる。パソコンなどの情報機器に堪能な若者世代は、フットワークが軽く、何事にも興味を示すので、広く佐倉の情報発信による宣伝効果が期待できる。若者が集まることで明るく、活気あるまちにつなげると考える。
委員長	P31 下段部分に、首都圏から近いこと、成田空港に隣接していることを利便性として若者を集め、また、歴史民俗博物館をはじめとした歴史・文化があることの特徴を生かしたまちづくりを表現できれば、現在策定中の産業振興ビジョンや400周年事業などがより際立つのではないかと。 また、成田市のカジノ構想や酒々井町のアウトレットなど外国人も多く訪れると予測されるので、佐倉市においては日本の歴史・文化を味わってもらおうように方向付けると観光協会など他団体の事業ともリンク出来てくる。
委員	オランダなどとの国際交流を大事にしているので、そういった視点を追加してもらいたい。また、「農」のあるまちづくりの中に、生物多様性の保全という言葉を入れてもらいたい。
委員	観光を売りにするには、駐車場やトイレの整備が必要。そういった文言を入れてもらいたい。
委員長	歴史と文化を語る町の代表となる城下町通りは、人口が減っている。昨日行った盆踊りがとても盛況であった。まず、地域のコミュニティーづくりをこの10年間で始めていかなければならない。
委員	長浜の黒壁のようなものを目指すのは、この10年間では難しいかもしれないが、方向性を作ることは可能だと思う。
委員	観光施策は佐倉にとって大事なことと考えられるが、行政だけが先走っても出来るものではない。今後10年で進めていくべきことは、民間と行政が協働で進めていく方向性を検討することだと考える。
委員長	行政や商工会議所がまちおこしなどの事業をしようとしても、役者になる地元の意識が弱い。まず、地元のやる気を起こさせることが大事。
委員長	5章「住環境が整備された住みやすいまちづくり」
委員	大型公園の整備の推進は、この時代に合わない。観光場所ともなりうるような田園など

	を巡るエコツーリズムなどの方がよい。外国人が成田空港から佐倉に来てもらう手立てになる。
委員	歴史的資源をつなぐ散策路の活用と書かれているが、活用する以前に、整備されていない。整備という言葉が必要。
委員長	散策路とは、城下町通りや裏新町通りなどを想定しているのか。城下町の特徴である細い道も街灯整備を併せてくれると趣のある散策路となりうる。
委員	大型公園とは西部自然公園なのか。そうであれば明記すべきではないか。
委員	P32 歩行者と環境が横並びではおかしいのではないか。
委員	中心市街地が空洞化して、周辺に団地が開発されている。空洞化、高齢化した中心市街地の活用方法についても触れるとよい。
委員	佐倉市はベッドタウンで、税収の大部分を市民税が占めていることから考えると、住環境の整備が人口維持の生命線となる。実施計画との整合性は必要だが、中心市街地や住環境の整備について、もう少し踏み込んだ方向性について触れてもよいのではないか。
委員長	佐倉市は5つのブロックに分けられ、それぞれ特色のあるまちづくりがされている。ユーカーが丘に代表されるコンパクトシティ、歴史のある佐倉地区、豊かな農村の弥富など、明確な特色を出していくことがこの10年間に行うべきこと。 長浜の黒壁のように、住民の意識も大事。景観条例なども併せて検討していく必要がある。
委員	P33 上から2行目の「歴史的資源をつなぐ散策路の活用を図る」と5行目「道路交通に関するさまざまなデータを活用し、住民とともに、道路整備を推進します」について、観光資源を結ぶ散策路には歩道のほか、自転車も通行できるように整備をしてほしい。また、生活道路は、多大な費用と長い年月を必要とするが、可能なところから、自転車、歩行者、そして自転車を区分した、3レーン併用道路とするか、または自転車優先道路により、まちとまちをつなげることを視野に入れた道路整備を希望する。
	6章「ともに生き、支え合うまちづくり」
委員長	オランダなどの国際交流に触れてほしい。
委員	情報共有について謳っている内容なので、タイトルの部分にもう少し情報共有のニュアンスを入れてもよい。
委員	行財政改革、税務行政の改革について触れてもらいたい。
委員	「行政が市民とともに」という内容を、協働という表現ではなく、公の役割を違う表現でできないものか。
委員	行財政改革には民間の活用ではなく、もっと踏み込んで官と民の役割分担をもっと明確にしていく必要がある。

委員長

市民意識の改革も進めていく必要がある。
第7回は今回の意見を答申にまとめたい。
第6回審議会を終了する。(16:54)